

# 靖國神社春季例大祭

弘中 昭夫 陸士60

靖國神社への参拝はこれまで幾度も経験しているが、春季例大祭、しかも勅使の御参向をお迎えしての式日に参列するのは初めてであった。

平成30年4月22日(日)、今年91歳にしては、まだまだ元気なつもりで、脚で、靖國神社南門から境内に入り、参集殿に到着して「靖國神社春季例大祭当日祭式次第」を頂戴する。

次いで、参集殿内で手水のお清めを済ませ、深呼吸を行って落ち着きを取り戻してから拜殿に昇った。

定刻10時、宮司以下、本殿所定の座に着き、國學院大学吹奏楽部の吹奏により国歌君が代を斉唱、権宮司による神酒、神饌の供御を奠し、宮司による祝詞奏上の後、勅使の到着を待つ。程なく御幣物を奏持(肩にかついで)する勅使一行が到着。以降式次第に則り、勅使御祭文の奉読、宮司の御祭文内陣奉納、次いで勅使玉串奉奠して拝礼、随員拝礼の後、並びに下向となる。

ここで吹奏楽に併せて「鎮魂頌」並びに「靖國神社の歌」合唱が聞こえてきた。次いで、権宮司が三献の神酒、

宮司が玉串奉奠をされたところで、本日の参列者の中から選ばれた特別参列者、崇敬者総代が本殿に進んで玉串を奉奠して拝礼。続いて我ら偕行社関連の参列諸員が担当者の指示に従って本殿中央へ進み出て、二拝二拍手拝礼の儀を滞りなく行い、全員終了した。退下して時およそ11時30分。

この後、筆者は社務所の奥右手に在る「遊就館」へ向かった。

招待券を係員に手渡し、2階へ至るエスカレーターを昇り切ると、順路案内が委しく分かり易く示してあり、時間的に余裕ある人と急ぐ人などのためのコースも考えてある。

最初は御祭神の遺信、音声録音が聞こえて来るようになっていた。

館内は、日清、日露、日中戦争から大東亜戦争万般にわたって、指揮した諸將軍の風貌、遺品、当時使用着された武器、弾薬、軍刀、車輛などが所狭しと陳列、開設のコースが展開されている。

筆者は、階下にある食堂、各種の飲物を供する席に立ち寄った後、一角の資料印刷物を置いてある場所で『天皇皇后両陛下慰霊と祈りの御製と御歌』(海竜社出版)に目をとめた。「二〇一五年七月第一刷発行」とあるが、小生にとっては初見、初耳の書であった。暫時立ち読みをして即感動、感銘の血

の騒ぐを覚えた。本稿の最後に、この御書の披露紹介を記し、当日例大祭に参加しての最終報告と致したい。

今上天皇は皇太子時代の昭和56年夏の定例記者会見で「日本ではどうしても記憶しておかねばならぬことが四つ有る」と述べられ、沖縄戦終結の日(6月23日) 広島原爆投下の日(8月6日) 長崎原爆投下の日(8月9日) 終戦の日(8月15日) を挙げられた。

ここに両陛下におかれては、「今日の私達の平和と生活があるのは、これまで祖国日本を守るために戦い亡くなられた方々の犠牲があつてこそ」という強いメッセージが込められていると承わった。我が日本国民の誰しもが両陛下のこの大御心を体して努めざるべからず。ぜひとも本書の拝読をお薦め致したい。

× × ×  
サイパン島慰霊(平成17年6月)に寄す。

今上陛下御製

あまたなる命の失せし崖の下  
海深くして青く澄みたり

皇后陛下御歌

いまはとて鳥果ての崖踏みけりし  
をみな足の裏思へばかなし